

令和2年度 第2回温海地域振興懇談会 会議録概要

○期 日 令和3年3月19日（金） 午後1時30分～午後3時22分

○会 場 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の人数 0人

○次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 報 告
4. 協 議
(1) 地域まちづくり未来事業の進捗及び次年度以降の計画について
(2) その他
5. 閉 会

○委員発言の概要

4. 協 議 (1) 地域まちづくり未来事業の進捗及び次年度以降の計画について

会 長

・今年度は、地域振興計画、未来事業計画がスタートして2年目、未来事業は、検証し毎年見直すことにしているので、意見等をいただきたい。

D委員

・人口減少は、団体においても会員の減少となり大変大きな問題と捉えている。温泉のばら園の景観等について、色々取り組んでいただき有難い。しかし、老朽化した空き旅館の対応もお願いしたい。強風の際に、空き旅館の非常階段が崩れ、瓦が下に落ちた。万が一、落下物でケガを負った際、誰が責任を取るのかという問題がある。また、旧温海高校や寿海荘について、県と連携してより良い活用方法を検討いただきたい。

総務企画課長

・1月～2月の暴風雪の際は、温海地域でも多数の被害報告を受けているが、空き旅館の件については、被害報告を受けておらず把握していなかった。通常、空き家等の被害報告を受けた場合、現場を確認し、所有者や管理者へ文書等で写真を添えて現状を報告し対応をお願いしている。当方で応急処置として網を使用し飛散を防ぐケースもある。

支所長

・問題の空き旅館については、以前より瓦の落下等があり、地域住民の方は非常に不安を抱えていると思う。不動産管理会社は「あくまでも預かりで管理まではしていない。」と対応を拒んでいる。仮に建物の落下物により器物破損やケガをした場合は所有者や管理者の責任となる。今後も情報提供いただきたい。

・寿海荘の利活用については、県が事前に市へ照会した他、いろいろ当られたようだが、最終的に企業や事業所等からの活用の申し出がないため、解体が決定している。その後の利活用については検討課題と捉えている。

E委員

・「恋する灯台」の取組など、鼠ヶ関地域の活動が活発である。日沿道関係では、新しく道の駅が出来る動きがあり、地元住民の方々や関係者と情報共有しながら進めていただきたい。

G委員

・未来事業について、見直しを図りながら取組が進められていることを評価する。足湯周辺のアスファルトが相当傷んでいるので、排水系の施工をお願いしたい。「さくらマラソン大会」の運営について、実行委員会の体制が厳しい状況で、市の支援が不可欠である。酒田市や山形市のように、市を挙げて取り組む形をお願いしたい。トライアスロン大会は、協議を重ね終止符を打つことができた。

I委員

・子供たちの学習支援として「あつみ未来塾」の取組は大変良い。さくらマラソン大会の運営については、60歳以上の方々が活躍できる場があるとよい。

M委員

・「あつみ湯けむり女子会」をネット検索すると「閉店」と出てくるとのこと。地域の方と旅行客のふれあいを目的に体験事業を行ってきたが、新型コロナの影響で旅行客が減少したため、店舗は閉店したが、体験事業の予約を受け活動している。今後も活動を続けていく。

L委員

・「日沿道を活かした鼠ヶ関周辺の活性化」として、「恋する灯台」に看板設置や弁天島周辺でイルミネーションの試験点灯を実施した。小学生のアイデアを取り入れ、出来ることから一つでも実現しようと地域の小学校PTA、みちくさ会、自治会、商工会、観光協会等の様々な団体や庁舎産業建設課の協力を得て実施した。今後もさらに充実した取組にしていきたい。

・「温海地域自然資源を活かした保育環境整備による定住促進事業」があるが、福栄保育園が閉園となり、山戸保育園も園児数が減少すると存続が危ぶまれる。

・「洪水ハザードマップ作成業務」について、市の防災担当から自治会へ防災計画の作成依頼があった。広報つるおか5月号にハザードマップを折り込み、対象集落へ配布する説明を受けたが、いつから実施する予定なのか。自治会住民の安全安心を確保することが自治会の重要な役割と考えている。洪水ハザードマップは大幅に変更されているため、住民へ説明する機会を設ける必要があるのではないか。

・「日沿道延伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化」として、日本国登山道の整備を計画に入れてはどうか。小名部自治会では、令和5年5月5日にイベント開催を検討している。小学生からも登山を体験してもらいたいと考えている。

市民福祉課長

・温海地域の保育園は、あつみ福祉会が運営する民間の保育園で、経営上、園児数が20名を下回ると経営面で負担が大きくなる。また、園児数が10名以下になると集団保育として成り立つか。山戸保育園は、入園児数が、令和3年

は14名、令和4年は10名となる見込みで、今後、地元と相談しながら保護者の意向等を踏まえ統合か存続かを検討することとなる。

産業建設課長

・日沿道の「道の駅」整備計画は、令和3年度、用地取得と計画区域の建物の物件調査委託、管理運営、官民連携手法の業務委託を予算計上している。日本国登山道の整備については、本年度の予算で温海町森林組合に委託し整備が完成する。

総務企画課長

・洪水ハザードマップは、鼠ヶ関自治会の役員の方々から、ご意見をいただきながら作成に努めた。今回作成のハザードマップは、洪水だけでなく、海岸部は津波浸水想定区域、山間部は土砂災害危険個所をいろいろな色で表示している。自分の住んでいる住宅がどのような場所か、各家庭で確認し災害に備えていただきたい。集落単位での説明は予定していないが、希望があれば対応していきたい。

A委員

・遊休資産の利活用について、旧福栄小学校は、養蚕として活用させていただいている。今年3月末に福栄保育園が閉園となり、地域から「福栄」の名称が全て無くなってしまふことは非常に残念。保育園はあつみ福祉会所有で、その利活用について第三地区自治会へ打診があったようだが自治会としての活用は難しいと思われる。「遊休資産等利活用に向けた市場調査事業」において福栄保育園の利活用についても一緒に考えていただきたい。

・昨年、国勢調査員として活動したなかで、人口減少を身に沁みて感じた。人手不足で除雪作業が困難になっている。三瀬地区のスノースーパーの取組も聞いてはいるが、福栄地区は、雪の量が多く、屋根の雪下ろし作業は体力と技術を要する。知識と経験のある地元の人で雪下ろし部隊を仕立てやっていくかかないと考える。

・定住から関係人口や交流人口の取組へと後退しているように感じる。東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラムにオンラインで参加し、関係人口をどのように増やしていくか学生と意見交流を行った。学生からは、定住はハードルが高いため、交流人口や関係人口を増やしていく話があった。地域のありのままの姿を見せ、関わりしろを作り、地域の応援団を募っていく等の方法を考えてはどうかと思った。

市民福祉課長

・福栄保育園は、次年度、保育環境整備事業で活用する予定。自然保育が全国的に注目を集めているので、頻度はそう多くはないと思われるが活用していく。利活用については、様々検討していくことになると思われる。

A委員

・施設の利活用について期待している。新たな事業を始めるとき、市の支援もお願いしたい。

市民福祉課長

・屋根の雪下ろしについて、ある事業所（建設業）が企業ボランティアとして朝日地域に行ったと情報があった。ボランティアセンターと相談し、福栄地区にも入っていただけるか情報収集していく。

A委員

・自治会長会で高齢者の一人暮らし世帯の名簿を作成し、優先順位をつけ対応

していただくと有難い。

支所長

・福栄保育園は、1年間、電気や水道を解約せず継続して使用できるようにし、あつみ福祉会の残る3園が、そこで自然体験をするプログラムを考えているようだ。建物は比較的新しいので、今後、有効活用を考えていかなければならない。

・屋根の雪下ろしは、技術や経験が必要であるため、講習会でスキルを学び、できる人材を育てるとともに応援できる体制づくりが必要と考える。

H委員

・情報提供として、鶴岡市老人クラブ連合会温海支部の令和2年度総会は、令和3年4月21日に、新型コロナウイルス感染予防対策として各单位クラブ3名迄の出席で開催予定である。

J委員

・「あつみ温泉集客イベント実施事業」について、あつみ温泉開湯1200年の記念イベントを実施するとあるが、イメージ像について教えていただきたい。3月の新酒まつりは中止となったが、6月頃に開催する予定であり、6月のばら園まつりは、ばら園を中心に温泉街を散策してもらうための準備を進めている。コロナ禍で感染防止対策なども含め準備や運営が大変厳しくなることが予想される。

・「温海地域公共交通網形成事業」の乗合タクシーは地域住民の足として多くの方が利用されているが、観光客への配慮もお願いしたい。一人旅も多く、電車やバスを乗り継いで温泉地に来るといふ旅行の楽しみ方をしている方の中、あつみ温泉駅と温海温泉間の路線バスや乗合タクシーの運行本数が少なく、観光客から残念なコメントをいただいている。観光地としてのダイヤ改正等の検討をお願いしたい。

産業建設課長

・あつみ温泉開湯1200年の記念イベントは、あつみ温泉魅力づくり推進委員会が企画運営し、市が助成し支援する形。

支所長

・新型コロナの影響で不透明であるが、6月のばら園まつりに新酒まつりを開催する予定であることや9月の温泉の例大祭にお湯興祭りを併せて開催する等のイメージはあるが、まだ、具体的に決まっていないようだ。

総務企画課主幹

・乗合タクシーは、試験運行の段階で高齢者を中心とした地域住民の交通として利用者等からご意見を頂戴し運行している。土日祝日の運行については、タクシー事業者が運転手の確保や車両の充実等の体制が整えば可能となり、将来的には、観光客にも対応が可能となると考える。

K委員

・消防団の団員数が減っており、現在、温海地域の5つの分団を4つへと改編を検討中で、現人数で地域の安全安心を守る体制づくりを考えている。また、一つの集落2班体制のところは1班体制へと統合を進めている。団員の多くは市街地へ勤務しているため、平日の日中に火事があっても消火作業に当たる人がいない状況である。今年は、風水害も多発したため、土嚢を各分団に百袋ずつ配備した。令和3年度も複数回に分けて各分団に配備し、災害時の迅速な対応を図りたい。今後も消防団活動にご理解とご協力をお願いしたい。

地域振興課

・人口減少により、様々と生活環境が変化している。地域住民が、取組の優先順位や地域のために残していきたいことを多世代で対話し、本当に必要なものを大事にして行けたらよい。

支所長

・人口減少で地域のマンパワーが不足であれば、地域外から人手、アイデアや意見をいただくことが大切だと思う。交流人口や関係人口の増加の取組は、定住に比べると後ろ向きとも思われるが、定住はかなりハードルが高い。観光やふるさと納税等の交流人口から、地域に何等かの縁がある方々が一歩進んで関係性を深める関係人口、さらに定期的に通い一時居住（二拠点居住）と一歩一歩階段を登って行かざるを得ないのが現状である。他地域に住んでいて、温海地域に対して熱い思いを持っている方がいたら紹介いただきたい。

・新型コロナウイルスの影響で旅館や商工業の方々は大変ご苦労されており、日々不安を抱えていると思う。アフターコロナに、どう生き残っていくか、今から考えておく必要がある。特に観光については、GoTo トラベルなどの制度がなくなった後のことを考えていかなければならない。

4. 協 議

M委員

(2) その他

・強風で空き家等の割れたガラスや剥がれたトタンなど飛散した物の処分などの対応はどこに相談したらよいか。近隣住民には不安に思っている方もいる。

支所長

・相談窓口は、総務企画課の空き家担当までお願いしたい。どんなに老朽化した住宅でも資産であり、所有者がいるので、勝手に取り壊すことができないが、危険な状況の場合、市が応急処置を行っている。軽微なものは、消防本部で対応する場合もあるが経費は所有者に請求する。

A委員

・交流人口や関係人口について、大いに進めていただきたい。実際、気候の良い時期にだけ温海地域に居住する方もおり大歓迎である。地域住民が、「ここはいいところだよ」と宣伝できるような地域づくりを進めて行ければよい。